

Special issues on Designing Smart Intelligence Learning Environment

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上林, 憲行 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2001

巻頭言

「ミニ特集：スマートインテリジェンス学習環境の デザイン」について

Special issues on Designing Smart Intelligence Learning Environment

武蔵野大学 MUSIC センター長

上林 憲行

MUSIC は、驚異的な技術進化を全学の教育学習サービスに先導的に活用する戦略的センターとして 2019 年 1 月に発足して、4 年が経ちました。この間、全学の情報教育の大改革を起点に、中規模以上の総合私大において初めて全学対象のデータサイエンス・人工知能科目の必修化を実現しました。さらに、AI 活用エキスパートコースと命名された、副専攻コースも開設して全学から履修生が受講してコース認定を目指すユニークな教育プログラムを提供することができ、内外からその先見性が評価されてきています。

コロナ禍のオンライン授業支援などの対応もあり、情報教育の必要性の認識、必要なインフラとしてのネットワーク強化、BYOD ノート型パソコンの普及とそれに伴う基本リテラシーのアップによって、次の情報の発展的活用の素地は完璧な状況が作り出されてきました。これは、大いなるフォロワーな風ですが、奇跡的な局面に立ち会うことができたことに、不思議な感慨があります。ただし、このことが学びのあり方について、場所の制約、時間の制約を解放して、いつでもどこでも学ぶことができるようになった。このことがあまりにも革新的であったため、もうこれでお腹がいっぱいになったと感じていますが、教育の破壊的イノベーションは、これからが本番です。そのドライバーは、AI の驚異的進化に伴う AGI(Artificial General Intelligence)の登場とその社会的浸透だと思えます。この変化にいち早く適応した組織が生き残ることになると思えます。大学はまさに、AI 進化の破壊的イノベーションに直面することになります。

一方で、MUSIC は全学中期計画において、AI(DX)の視点から新しい大学像や特長を先導的に開発するミッションを担ってきています。その中で、武蔵野大学らしい大学の学びや教育スタイルを創出する目的で、「響学スパイラル」のコンセプトが大学の教学サービスの方針として決定されました。その響学スパイラルの理念を具体化する目的で、物理的なキャンパス特に、従来の教室を新しい要請に進化することが求められることが強く認識されてきました。それは、まさしく教える室(空間、場)ではなく、響室、つまり教員、学生が響き合

って学ぶという教育・学習環境に対する従来の教室的教育観からの脱却を図る極めて革新的な意味合いがあるコンセプトです。幸いにも、本学でこの響室を実際にデザインして構築するとともに、実際に複数の授業を展開し、当初の想定を遥かに超える大きな反響がありました。

この革新的な響室プロジェクトについて、多くの方々にご理解をいただくことを目的に、今回の MUSIC の紀要の発行にあたって、「ミニ特集：スマートインテリジェンス学習環境のデザイン」特集を組むことしました。今回、その呼びかけに呼応していただき、響室プロジェクトに関わっていただいた皆様に特集の趣旨をご理解いただきご多用のなか執筆いただきました。このプロジェクトの意義と実践から得たメッセージを内外に発信できることになりました。執筆いただきました皆様には、紙面を借りて改めてお礼を申し上げます。